

第14号

1997年2月

社會經濟史學會中國四國部會

會報

(発行)

会報編集委員会

岡山大学経済学部内
岡山県津島中3-1

第14号

1. 1997年度 総会記録

1997年度総会は、11月1日(土)、大会第1日目の報告ののち、事務局員の在間宣久氏の司会で、5時40分から開かれました。代表理事の神立春樹氏の挨拶のあと、次のような報告・議案が提出され、了承されました。

(1) 1997年度事務報告

ア. 活動報告

- ・1996.12.28 : 会報第12号の発行・送付
- ・1997. 7.18 : 会報第13号の発行・送付、大会開催予告、発表申込の受付など連絡
- ・ 8.26 : 理事会開催通知
- ・ 9. 7 : 理事会開催(於、岡山大学経済学部410号室)

参加者：平田桂一(愛媛)・加藤房雄(広島)・神立春樹・在間宣久・森元辰昭(以上岡山)・松尾 寿(島根)

議 題：

1. 報告者・報告論題、司会者の決定
2. 1999年度大会開催地について-岡山大学に願います。
3. 理事(鳥取)中山精一氏(鳥取大学)辞任申出の件。
4. 理事(高知)関田英里氏にかわり田村安興氏(高知大学)が就任。
- ・ 9.11 : 報告者・報告論題決定通知以後は、開催校(広島大学)による大会諸準備に入った。

10. 7 : 理事会結果報告(理事宛)

イ. 会員の状況

1996年度会員 152名(1996.10.31現在)

1997年度会員 163名(1997.10.31現在)

増減内訳

: <退会者> 青野春水(徳島)

: <新規加入>

李 (岡山大学大学院)

沢山美果子(順正短大)

山本 準(鳴門教育大学)

辻 唯之(香川大学)

胡 光(香川県立博物館)

栗原真人(香川大学)

溝口常俊(名古屋大学)

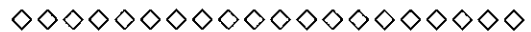
村上了太(大阪市立大学大学院)

東 昇(九州大学大学院)

大村照夫(名古屋学院大学)

榎 嘉明(岡山近代史研究会)

金光教教学研究(団体加盟)



近 況 報 告

鳴門教育大学の尾野 比左夫先生

1997年6月、イギリス王立歴史学会のFellowに選出されました。Fellow of Royal Historical Society. 称号は、F.R.Hist.S. (日本では8人目です)。

郵便振替口座番号 01290-4-12846

(加入者：社会経済史学会中国四国部
会)

2. 1997年度

大会報告

1997年度大会は11月1(土)、2日(日)の
両日、広島大学東千田校舎を会場に開かれま
した。

[研究報告]

《第1日目》11月2日

(1) 中世国家と領主制

—在地領主制論の再検討—

崇徳高等学校 小野寺 直 日
司会 三 好 昭一郎

(2) 士族授産事業の展開と金融機関

—山口県の事例を中心として—

早稲高等学校 島 中 茂 朗
司会 岩 橋 勝

(3) 明治前期における大農論と明治農政

広島大学 勝 部 眞 人
司会 坂 根 嘉 弘

(4) 第1回国勢調査にみる鳥取県の 産業構成

岡山大学大学院 大 川 篤 志
司会 松 尾 寿

(5) 関谷馨長西綴一と中国

岡山近代史研究会 吉 崎 志保子
司会 太 田 健 一

(6) 許乃済「弛禁論」の評価をめぐって

就実女子大学 新 村 容 子
司会 平 田 桂 一

この後、「エソール広島」にて懇親会が開か
れ、なごやかな雰囲気の中に第1日目の行事
を終了しました。

《第2日目》11月2日

(7) 李朝後期の農民の存在形態

—主戸・狭戸関係を中心として—

広島修道大学大学院 金 永 徹
司会 道 重 哲 男

(8) 近代日本漁業の府県別諸類型

—1891年～1940年における—

岡山大学大学院 熊 谷 正 文
司会 下 野 克 巳

(9) 玉野市制の成立-地方工業都市の形成-

玉野市立玉中学校 榎 嘉 明
司会 千 田 武 志

(10) 日本における企業福祉制度の創始-独・ グループ社の保護救済制度の受容-

中国短期大学 大津寄 勝 典
司会 加 藤 房 雄

(11) 中国食料問題の底流

高知大学 田 村 安 興
司会 富 岡 庄 一

[注、発表題目は当日のレジュメによる。]

3. 大会参加記

学会に参加して

岡山大学大学院 大川篤志

今年の8月も終わろうとしている頃、私は、
思いもかけずに、学会において研究報告をさ
せて頂く機会を得ることとなりました。報告
を聞く側としてでさえ学会への参加経験がな
かった私にとって、それは全く大それた試み
でした。しかし、ともかくも決まったからに
は、何とか自分の出来る限りのことをしな
ければなりません。報告のテーマは「第1回国
勢調査にみる鳥取県の産業構成」とし、同調
査報告の職業別人口から整理し始めました。
鳥取県内については、すでにある程度整理を
進めていたのですが、全国については、まず
資料を探ることから始めなければなりません
でした。こうした調子でしたので、時間不足
と日頃の不勉強を嘆きながら作業を進めるこ
とになりましたが、周囲の方たちのご協力を

得ることが出来たおかげで、当日直前には何とか準備を終えることが出来ました。

こうして、11月1日・2日の両日に広島大学東千田校舎において開催された、社会経済史学会中国四国部会の1997年度大会を迎えたわけです。

肝心の報告はというと、拙い内容ながらも何とかスマートに発表したいものだと思っていたのですが、緊張のためか口はカラカラでうまく声が出ず、さらには説明の順番を間違えた上に一部内容をとぼしてしまったりと、全くいいところのないものとなってしまいました。また、頂いたご質問の多くはレジュメや図表の不備が原因となっており、その点においても多くの反省を残すこととなりました。

このように、多くの反省と課題を与えていただいたこの度の学会は、私にとって非常に意義深いものとなったように思います。こうした機会を与えて下さった指導教官の神立春樹先生をはじめ、岡山近代史研究会の方たち、当日お聞きいただいた諸先生方に感謝するとともに、指摘された問題点について今後一層研究を深めていきたいと思えます。

4. 最近の研究成果一覧(1)

1997年度大会出欠連絡用葉書で御案内の通り、最近の研究成果についての記入欄を設けましたところ、82名の出欠連絡のうち、57名の方が研究成果を記入して下さいました。1人3点という限定を設けましたので、お困りになった方もいらっしゃると思いますが、以下(別紙)に掲載します。紙面の都合上、今回は36名について掲載し、残りの21名分は、6月発行予定の「会報」第15号に掲載します。ご了承下さい。未提出の方で、掲載希望がありましたら、5月末日までに事務局までお送り下さい。

なお、掲載順は名前順とし、所属を書き添えました。発行月は割愛させていただきました。多くの方々のご利用を念願しています。

5. 「会報」第15号予告

事務局では、次号の「会報」(第15号)を6月に発行する予定です。つきましては、皆さんの原稿を募集します。

最近の研究成果や研究動向、問題提起などを事務局までお送り下さい。〆切は、5月末日とします。出来れば、フロッピーディスクも一緒にお送りください。

~~~~~

#### 編 集 後 記

~~~~~

新年、明けましておめでとうございます。12月発行をめざしてはいましたが、ついに越年してしまいました。

日本漢字検定協会が1997年度の世相を示す1文字を募集したところ、約13000件の応募があり、そのうちの1割に相当する3000件が「倒」という文字であったようです。山一証券など大手企業をはじめ、中小の関連企業の倒産が相次ぎ、「心が倒れる」神戸の児童殺傷事件など、さらにはサッカーのワールドカップで相手を倒したことなどが、この字を選ばせたようです。いろいろなツケが庶民にまわって来るのでしょうか。

さて、今回は1997年度の大会特集です。今回の大会では、厳しい指摘がありました。発表内容に関するものと、学会発表に関する手続きの厳守についてであります。自由な雰囲気の中で、会員相互の研鑽をめざすことは必要なことではありますが、論点整理のありかたや、先行研究に関するまとめなど、学問上でのルールを守ることは大変重要なことです。お互いに気をつけたいものです。

事務局の怠慢から、大会参加記は大川氏の1点のみとなりました。大会開催につきましては、広島大学の先生方に変にお世話になりました。重ねて感謝いたします。次回は高知大学です。多くの方々への参加を期待しています。
〔事務局 森元辰昭記〕